

2021年度決算・2022年度予算

上智学院の2021年度決算および2022年度予算が、5月25日(水)に開催された上智学院理事会、評議員会において承認されました。以下にその内容を紹介し、解説します。

2021年度 決算

【2021年度 決算の概要】

2021年度の事業活動収支について全体を見ると、収入面では事業活動収入合計28,880百万円で2020年度比約3億円の減少、支出面では事業活動支出合計26,167百万円で同約12億円の減少となりました。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は2,713百万円の赤字となり、前年度と比べて861百万円多くなっています。

次に事業活動収支の三つの区分ごとに見ていくと、まず学校本来の教育研究活動に係る教育活動収入は26,340百万円、教育活動支出は25,730百万円で、教育活動収支差額は610百万円の収入超過となりました。教育研究活動にかかる収支差額では2020年度を下回りますが、学校本来の活動で赤字を維持できています。

新型コロナに関しては2021年度も影響を受け、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が感染者数の減で一度は9月に全面解除されたものの、11月には変異株の各国での拡大を受けて外国人の新規入国が原則停止されました。2022年に入っても1月に再度まん延防止等重点措置が適用され3月に全面解除となりましたが、国内・海外とも教職員・学生の動きに影響を与えることとなりました。

財務活動の動きを表す教育活動外収支は、収入面で受取利息・配当金が1,657百万円となり、ほぼ前年度に近い収入をあげています。また収益事業会計から昨年同様450百万円の収入がありました。教育活動外支出は借入金等利息のみで、元金返済が進んだことにより支払利息が前年度と比べて16百万円減少しています。

三つ目の特別収支区分に計上される収支は、収入として資産売却・施設設備に係る寄付金・補助金収入等、支出では施設設備・有価証券の処分差額等が計上されます。2021年度は特別収入が398百万円、特別支出が322百万円で、76百万円の赤字となりました。

以上による基本金組入前当年度収支差額(事業活動収入計-事業活動支出計)は、最初に述べたとおり前年度を上回る好結果となりました。基本金組入額は昨年度のような大きな除却がなく、第1号基本金は建物・構築物・機器備品・建設仮勘定支出など固定資産の増加と減少、借入金の返済による組入、リース資産未払金など未払金の当年度支払による組入などで2,046百万円、第3号基本金の寄付に基づく奨学基金の新設及び既存奨学基金等への組入などで計2,336百万円となっています。

上記の結果、当年度収支差額(基本金組入前当年度収支差額-基本金組入額)は377百万円の赤字となりました。翌年度に引き継ぐ繰越収支差額は、前年度からの繰越収支差額(赤字)に当年度収支差額と社会福祉専門学校の閉校に伴う除却などの基本金取崩額71百万円を加えた結果、△8,124百万円となりました。前年度と比べて448百万円改善されています。

2021年度末の財政状態は、貸借対照表上の資産の部の合計が166,247百万円で、2020年度比1,454百万円の増加となりました。これは、主に特定資産が増加したことによります。一方、負債の部の合計は2020年度比1,259百万円減少していますが、これは新規の長期借入・短期借入がなかったことが主な要因です。固定負債は、長期借入金から短期借入金への振替(翌年度返済分)で、約12億円減少しています。資産の増と負債の減の結果、純資産の部合計は142,335百万円となり、2020年度比2,713百万円増加しました。

以下に2021年度の事業活動収支計算書と貸借対照表をお示しし、主たる差額要因をご説明いたします。

なお、詳細については、上智学院ホームページに掲載の「財務情報」をご参照ください。(掲載場所: トップページ>公開情報>事業計画書・事業報告書・財務状況(決算資料))

【上智学院】事業活動収支計算書 (単位:百万円)

科目	2021年度	2020年度	差異
学生生徒等納付金	18,712	19,220	△508
手数料	902	1,048	△146
寄付金	908	705	203
経常費等補助金	4,006	4,086	△80
付随事業収入	640	668	△28
雑収入	1,172	994	178
教育活動収入計	26,340	26,721	△381
人件費	15,150	15,063	87
教育研究経費	9,031	9,341	△310
管理経費	1,549	1,458	91
徴収不能額	0	0	0
教育活動支出計	25,730	25,862	△132
教育活動収支差額	610	859	△249
受取利息・配当金	1,657	1,759	△102
その他の教育活動外収入	485	459	26
教育活動外収入計	2,142	2,218	△76
借入金等利息	115	131	△16
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	115	131	△16
教育活動外収支差額	2,027	2,087	△60
経常収支差額	2,637	2,946	△309
資産売却差額	97	0	97
その他の特別収入	301	233	68
特別収入計	398	233	165
資産処分差額	320	506	△186
その他の特別支出	2	821	△819
特別支出計	322	1,327	△1,005
特別収支差額	76	△1,094	1,170
基本金組入前当年度収支差額	2,713	1,852	861
基本金組入額合計	△2,336	△958	△1,378
当年度収支差額	377	894	△517
前年度繰越収支差額	△8,572	△10,116	1,544
基本金取崩額	71	650	△579
翌年度繰越収支差額	△8,124	△8,572	448

※表示単位未満を合計に合わせているため、各科目において四捨五入でない場合があります。

2021年度の学生生徒等納付金は、高等教育部門の各学校で学生数の減により減少しました。(社会福祉専門学校の閉校による減)手数料は、大学の入学検定料と志願者数の減により151百万円減少しました。

2021年度は毎年の大学後援会、短大後援会からのご寄付の他、ソフィア会から奨学基金・コロナ対策に係るご寄付をいただきました。またナルン大同教区、(株)ソフィアキャンパスサポート、各企業、個人など多くの方から、SOPHIA 未来奨学金等へ昨年を上回るご寄付をいただきました。

文科科学省及び日本私立学校振興・共済事業団から交付される国庫補助金(施設設備に関する補助金以外)、地方公共団体補助金です。経常費補助金、国際化拠点整備事業費補助金(S-GU、COLI)の他、高等教育無償化に係る交付金を受けています。

緊急事態宣言の解除などで学生寮の入寮者が戻りつつあり、寮費収入は51百万円増加しましたが、2021年度は受託事業収入・学外共同事業収入が102百万円減少しています。公開講座収入は24百万円の増となりました。

教職員の人件費、退職金の支払に備えた退職給付引当金繰入額等が計上されています。2021年度の増加要因は、主に職員人件費で249百万円の増となりました。退職給付引当金繰入額は、高等教育部門の職員定年退職者が多かったこともあり、必要額が128百万円減少しています。

2021年度も、コロナ関連で緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の解除・発令が繰り返されましたが、教育研究経費で昨年度比310百万円減となった主な要因は、修繕費の減です。昨年度は3・4・8・9号館改修完了による建設仮勘定の清算で、修繕費に369百万円計上されました。他の費目では、施設使用の拡大に伴う光熱水費162百万円の増、奨学費170百万円の減などです。管理経費は固定資産税、業務委託費などで増加しました。

奨学基金及び他の引当特定資産の運用収入で、2021年度も低金利が続く中、昨年に近い1,657百万円の収入を得ることができました。

2021年度も昨年度と同様、収益事業会計から450百万円の繰入収入がありました。

教育活動収入と教育活動外収入から同支出を差し引いた金額です。経常的な事業活動が安定的であるかを判断する指標となります。2021年度は昨年度を下回りましたが、2,637百万円の収入超過となりました。

2021年度は、有価証券の売却による差益が97百万円ありましたが、その他の特別収入は、施設設備寄付金と現物寄付で168百万円、施設設備補助金が133百万円ありましたが、

2021年度は、建物など施設の処分差額が約11百万円、機器備品と圖書の処分差額で約11百万円、有価証券処分差額で98百万円ありましたが、昨年度のその他の特別支出821百万円は、3・4・8・9号館等の改修工事完了による建設仮勘定の清算で発生した過年度修正額です。

事業活動収入計から事業活動支出計を差し引いた収支差額で、基本金組入額控除前の金額です。2021年度は昨年度のような大きな特別支出がなかったこともあり、861百万円の収入超過となりました。

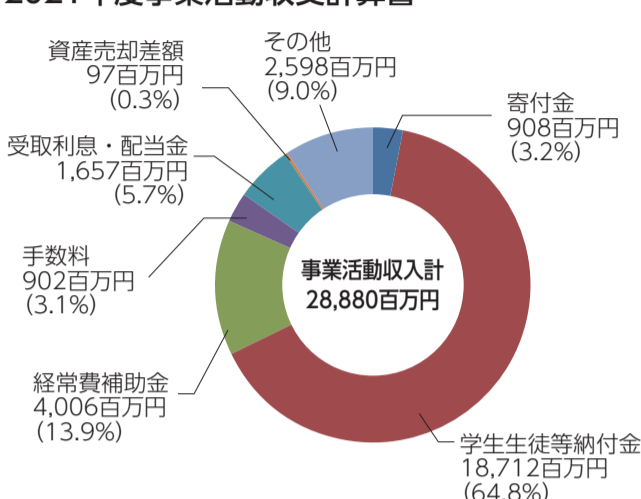
2021年度の組入額は、土地・建物・備品などに対する第1号基本金が約2,046百万円、奨学基金充実のための第3号基本金が300百万円、将来計画のための第2号基本金組入額は計画の進捗に伴う第1号基本金への振替があり、11百万円の減となっています。昨年度は3・4・8・9号館等の改修完了に伴う除却が多額となったため、組入額は少なくなっています。

基本金組入後の当年度最終損益にあたります。2021年度は施設の売却や大きな建築工事がなく、377百万円の収入超過となりました。

事業活動収支計算書とは…
当該会計年度の事業活動毎の収支の内容と均衡状態を明確にし、経営状況を表すものです(企業会計の「損益計算書」に似た性格を持つ計算書)。事業活動収支計算書では、「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」の3区分を設けており、経常的な収支(教育活動収支と教育活動外収支)と臨時的な収支(特別収支)の各区分の収支を把握することができます。また、基本金組入後の収支均衡の状態を明らかにします。学校法人は利益の追求を目的としていないため、学校法人に入ってきた事業活動収入は、すべて教育・研究に還元し、「当年度収支差額」が均衡していることを理想としています。

基本金とは…
学校法人が諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な資産を継続的に保持するための金額であり、以下のとおり、第1号基本金から第4号基本金まであります。
・第1号基本金…設立時や規模の拡大若しくは教育の充実に向うために取得した固定資産の額
・第2号基本金…将来取得する固定資産に充てる金銭その他の資産の額
・第3号基本金…基金として継続的に保持し、運用する金銭その他の資産の額
・第4号基本金…恒常的に保持すべき資金

2021年度事業活動収支計算書



【上智学院】

貸借対照表

科目	年度 (単位:百万円)		
	2021年度	2020年度	差 額
固定資産	156,619	154,457	2,162
有形固定資産	92,067	93,615	△1,548
特定資産	59,163	55,621	3,542
その他の固定資産	5,389	5,221	168
現金預金	8,540	9,469	△929
その他の流動資産	1,088	867	221
資産の部合計	166,247	164,793	1,454

2021年度は四谷キャンパス15号館新築工事、外構整備工事等約4億円以外は大きな工事がなく、減価償却額が22億円増加したため、15億円の減少となりました。

特定資産には「第2号基本金引当特定資産」、「第3号基本金引当特定資産」、「退職給付引当特定資産」、「減価償却引当特定資産」、「その他の引当特定資産」があります。減価償却引当特定資産は27億円の増加で、減価償却額累計の64.4%になりました。第3号基本金引当特定資産は、高額寄付による基金設定を受け3億円増加しています。

収益事業元金は変更がなく43億円で、他には、信濃町にあるアルペ国際学生寮の長期前払金(地代)と敷金で計4億円、有価証券4億円などです。

現金預金は出金額が入金額に比べて約11億円増加した結果、前期繰越額が2億円多かったものの前年度比9億円減少しました。その他の流動資産の増加は、教職員の退職に伴う財団交付金の未収入金、施設設備補助金の未収入金などです。

固定負債は施設取得等に係る新規借入がなく、翌年度返済分の短期借入金への振替で約12億円の減少となりました。他は退職給付引当金及びリース資産にかかる長期未払金の減少です。流動負債は短期借入金の新規借入がなく、返済の進捗による減少と新入生前受金の増加などです。

純資産の部 (単位:百万円)

科目	年度 (単位:百万円)		
	2021年度	2020年度	差 額
基本金	150,458	148,193	2,265
第1号基本金	131,855	129,880	1,975
第2号基本金	2,496	2,507	△11
第3号基本金	14,233	13,932	301
第4号基本金	1,874	1,874	0
繰越収支差額	△8,123	△8,571	448
翌年度繰越収支差額	△8,123	△8,571	448
純資産の部合計	142,335	139,622	2,713

自己資金で取得した校地、校舎、教育用機器備品、図書、建設仮勘定等の固定資産総取得額の増減が計上されます。そのため有形固定資産の取得、除却が反映されるほか、借入金の返済に伴う基本金組入額約12億円が含まれています。2021年度は四谷キャンパス15号館新築工事、機器備品などで約7億円の支出がありました。

将来取得する固定資産に充当するため、事前に計画的・段階的に積み立てる資産(現預金や有価証券)相当額が中等教育部門で1億円計上されています。また、四谷キャンパス整備計画の進捗による第1号基本金への振替の結果、若干減少しました。

奨学基金や研究基金など、基金として継続的に保持し運用する資産の額が計上されています。2021年度は高額寄付による新たな奨学基金の設定があり、他の奨学基金を含め前年度比3億円増加しました。

翌年度に繰り越される累積の収支差額のことです。2021年度は借入金などの負債合計が約12億円減少し、資産合計が14億円増加、基本金が22億円増加となった結果、翌年度繰越収支差額は1億円改善されました。

※表示単位未満を合計に合わせているため、各科目において四捨五入でない場合があります。

負債の部及び純資産の部合計 (単位:百万円)

科目	年度 (単位:百万円)		
	2021年度	2020年度	差 額
負債及び純資産の部合計	166,247	164,793	1,454

貸借対照表とは…
期末(年度末)における資産・負債・純資産の額を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

2022年度 事業計画

【はじめに】
学校法人上智学院は、上智大学が創立100周年を迎えた2013年に将来構想「グランド・レイアウト 2.0 (2014年度～2023年度)」(以下GL2.0)を掲げ、教育研究環境の改善に努めて参りました。2019年度からは、これまでの実績と本学院の現状と課題を明確にした上でGL2.0を見直し策定した「グランド・レイアウト2.1 (2019年度～2023年度)」(以下GL2.1)という新たな目標の下で、様々な計画を進めております。このGL2.1およびそのアクションプランに基づき、GL2.1の4年目にあたる単年度計画として以下の通り2022年度事業計画を策定いたしましたので、ここに公表いた

します。新型コロナウイルス感染症の流行とそれにあわせて加速化したオンライン授業の展開に関しては、各学校において一定以上の成果をあげることが叶いました。しかしながら今後更に激しさと速さが増すであろう社会の情勢変化に、これまでの知見や経験も活かしつつ対応していくことは、本学院の高等・中等各教育機関に課された責務です。この課題認識の下、2022年度はポストGL2.1として次の次期中長期計画の準備も併せて進めて参ります。

上智学院の運営計画に関する計画

- イエス会变成らびにカトリック教育の理解と浸透
 - (1)伝統を維持・継承し、絶えず適用し、刷新するための基盤を形成する
- サステナビリティ推進に関する計画
 - 教職員、学生、生徒が共に参画する、上智学院横断組織としての「上智学院サステナビリティ推進本部」の事業計画は以下の通り定める。
 - ・「共生社会の実現」に向けた教育環境における課題抽出と整備対応
 - ・ダイバーシティ推進に係る取り組みの促進
 - ・構成員(学生、生徒、教職員)の意識醸成、意識啓発に向けた企画や研修会の実施
 - ・コアリションへの参画、政策提言等を通じた自治体との関係強化、企業との共催企画実施等を通じた、国内外の諸組織との連携と協働の推進
- 全体計画
 - (1)上智学院における企画立案機能・迅速な意思決定を可能とする運営体制を構築・定着させる
 - (2)質保証を踏まえた学術マネジメント体制を構築・定着させる
 - (3)リスクマネジメントを徹底する
 - (4)意思決定を支援するIR (InstitutionalResearch)活動を充実させる
 - (5)学院を支えるステークホルダーとの紐帯を充実させる
- 組織・人事計画
 - (1)教員・教学組織のパフォーマンスを向上させる
 - (2)職員・事務組織のパフォーマンスを向上させる
 - (3)効率的な組織運営を実現し、人件費の構造改革を実現する
 - (4)教職員の多様性を活かし、いきいきとした組織をつくる
 - (5)上智学院が設置する学校間における連携を活性化させる
- 財政計画
 - (1)自己財源を充実させる
 - (2)外部資金を積極的に確保する
 - (3)適切な予算配分を行う
 - (4)経費削減に恒常的に取り組む
 - (5)教育研究環境維持向上のために引当金を拡充する
 - (6)奨学基金を拡充する
- 施設・設備計画
 - (1)教育研究環境の向上を図る
 - (2)施設・設備の維持保全を図る
 - (3)施設・設備の自然災害への対応推進によるキャンパスの安全性の向上を図る
- ICT計画
 - (1)ICTによる教育研究および学生支援をさらに高度化する
 - (2)経営戦略策定のためのツールとしてICTをより効果的に活用する
 - (3)情報セキュリティ強化のための運用・管理体制を確立する

※詳細な事業計画については、上智学院ホームページに掲載の「事業計画書」をご参照ください。(掲載場所: トップページ>公開情報>事業計画書・事業報告書・財務状況(決算資料))

2022年度 予算

【2022年度予算の概要】

2022年度予算は、前年度予算に比べ、事業活動収入は101百万円の減少、事業活動支出は683百万円の増加となりました。収入が減少した要因は、学生生徒等納付金の減収によるものであり、支出が増加した要因は、保有資産の売却による特別支出の計上によるものです。当該保有資産売却分を除くと、基本金組入前の収支がほぼ均衡することから、基本金組入後の当年度収支差額は支出超過となり、厳しい状況となる見込みです。

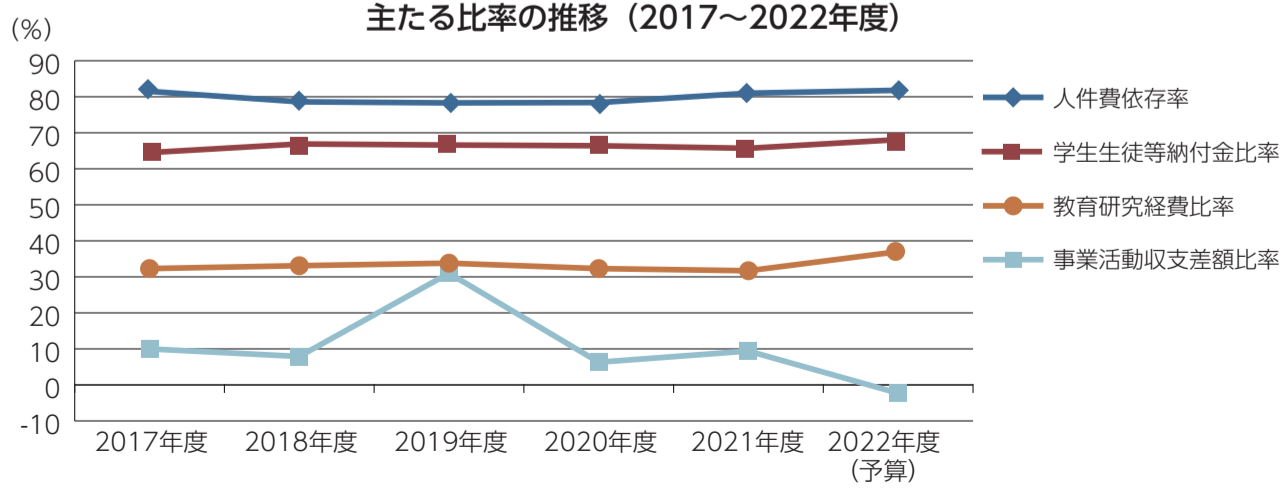
喫緊の課題として取り組んできた学生生徒等納付金の安定的な確保を図るための戦略や外部資金獲得策の積極的な推進、人件費支出の抑制などについては継続的に取り組みつつも、教育・研究の機会を確保するために必要な事項を優先するなど、柔軟な予算の執行に努める所存です。

以下に2022年度の事業活動収支予算書をお示いたします。なお、詳細な予算内容と事業計画については、上智学院ホームページに掲載の「財務情報」をご参照ください。(掲載場所: トップページ>公開情報>事業計画書・事業報告書・財務状況(決算資料))

【上智学院】		2022年度 事業活動収支予算書 (単位:百万円)			
科目	2022年度	2021年度	差 異		
			2022年度	2021年度	
学生生徒等納付金	18,748	18,976	△228		
手数料	988	994	△6		
寄付金	495	492	3		
経常費等補助金	4,150	4,150	0		
付随事業収入	925	910	15		
雑収入	1,016	1,049	△33		
教育活動収入計	26,322	26,571	△249		
人件費	15,338	15,134	204		
教育研究経費	9,966	10,144	△178		
管理経費	1,754	1,723	31		
教育活動支出計	27,058	27,001	57		
教育活動収支差額	△736	△430	△306		
受取利息・配当金	773	591	182		
その他の教育活動外収入	450	450	0		
教育活動外収入計	1,223	1,041	182		
借入金等利息	98	115	△17		
その他の教育活動外支出	0	0	0		
教育活動外支出計	98	115	△17		
教育活動外収支差額	1,124	926	198		
経常収支差額	388	496	△108		

科目	2022年度	2021年度	差 異	
			2022年度	2021年度
資産売却差額	0	0	0	
その他の特別収入	136	170	△34	
特別収入計	136	170	△34	
資産処分差額	927	284	643	
その他の特別支出	0	0	0	
特別支出計	927	284	643	
特別収支差額	△791	△114	△677	
予備費	225	225	0	
基本金組入前当年度収支差額	△629	157	△786	
基本金組入額合計	△2,044	△1,962	△82	
当年度収支差額	△2,673	△1,805	△868	
前年度繰越収支差額	△8,123	△8,571	448	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△10,796	△10,376	△420	

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。



○人件費依存率 = 人件費 / 学生生徒等納付金
○学生生徒等納付金比率 = 学生生徒等納付金 / 経常収入(教育活動収入 + 教育活動外収入)
○教育研究経費比率 = 教育研究経費 / 経常収入(教育活動収入 + 教育活動外収入)
○事業活動収支差額比率 = 基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入